

## 朴先哲・駐名古屋大韓民国総領事館総領事

# 対話、協議、協力を重ねながら 日韓関係の改善に期待したい

5年ぶりの政権交代で、保守系の尹新大統領が就任して1カ月半。新政権で日韓関係が悪化したとされる前政権からどう変わるのか、注目される。新型コロナウイルス対応、北朝鮮の度重なるミサイル発射、ロシアのウクライナ侵攻も懸念される。日本在勤10年余の日本通で、名古屋勤務3年目を迎える朴先哲駐名古屋大韓民国総領事に「日韓新時代」を展望してもらった。

(聞き手、塚本隆編集長)

——新政権がスタート、国民の期待は大きい  
ですか。

**朴先哲総領事** 国内では新しい政策への期待は高いと思います。特に今までの政治スタイルとは違うタイプのリーダーシップとして国と国民に、より効率的な政策を取るだろうと多くの国民が期待しています。

——韓国内の現状と課題は。

**朴** まず、新型コロナウイルスの影響ですが、重症者、入院者も減少しつつあり、最近の感染者は週末で5000人、平日で1万2000人ほどで、一時期に比べて少しずつ落ち着いてきています。ただ、日本と同じように夏以降に再流行も懸念されるため、新たに関係省庁の人事も決まり、一生懸命に対応していると思います。

——ワクチン接種の状況はどうでしょうか。

**朴** 接種率は全世代的に見ても1、2回目はほぼ9割近くで、3回目も7割近いです。そして高齢者を中心に4回目も始まり、すでに3割に達していると思います。

——不動産価格の高騰も注目されました。

**朴** 不動産は首都圏に人口が集中しているために住宅が供給不足になって高騰していましたが、規制緩和、供給拡大のロードマップ提示等で、今は多少落ち着いているような気がします。統一地方選で、首長が変わり、地方においても対策が安定してくると思っています。

——景気、所得格差も課題ではないですか。

**朴** 景気はいろいろな見方がありますが、OECDのデータなどによると、GDPの成長率は今年、3%が予想されています。日本より高く、先進国の中でも高い方ですね。所得格差は韓国に限らず大きな課題ですが、OECDの指標によると、ほぼ中間より少し悪い状況です。でも高齢化や年金問題など、は韓日が共に抱える共通課題ですので、両国が協力して臨んだらより良い解決策が見つかるかも知れません。

——日韓関係をどう展望していますか。

**朴** よくなるんじゃないですか。新しい尹大統領は韓日関係を改善しようという考え、意思があります。ただし、韓国が手を差し出したので、日本にはその手を取ってほしいです。そうすれば、何らかの解決策が見えてきます。韓日の間にはいくつかの問題があり、1回で全部解決することはあり得ません。しかし、対話、協議、協力を重ねていく中で、いろいろ道は見え、その中で一番いい道を選んで、その道を開拓しながら進んでいけば、今よりは明るく、よくなると思います。私も今までそう考えて仕事をしてきましたからね。両国の中には反対の意見もありますが、そうした声を聴きながら、何とか政府同士で会談していい案を探っていければと思います。そうでなければ現状にとどまるしかありませんからね。

——日米韓の連携強化では一致していますしね。